



当プレスニューズレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 21 年 10 月 23 日  
東京文化発信プロジェクト室  
(財団法人東京都歴史文化財団)

## 今月のテーマ ＊ グローバル・アイ



『フェスティバル/トーキョー09秋』実行委員会に聞く

### 世界の潮流を体感するフェスティバルへ！

国内だけでなく、広く世界に向けてアピールする東京文化発信プロジェクト。

2回目を迎えた『フェスティバル/トーキョー09秋』は、国際的な舞台芸術の祭典です。

実行委員会の蓮池事務局長とスタッフのウルリケさんにお話を伺いました。

#### 最先端のドキュメンタリー演劇も登場

——『フェスティバル/トーキョー09秋』(以下、F/T)は、今春に続いて2度目の開催となりますが。

**蓮池** 日本を代表する舞台芸術の国際フェスティバルという枠組みの中、プログラム、コンセプトともに春との連続性を持たせています。内容もかなり充実しましたし、自治体と民間が組んで実施する大規模な演劇祭として周知を進めているところです。

——ウルリケさんは制作スタッフとして、どんな仕事をされていますか？

**ウルリケ** ドイツの大学でドラマツルギーを学んでから来日し、去年7月にスタッフに加わりました。今は海外招聘作品を担当しています。特にドイツから来るプログラムは、ドキュメンタリー演劇の先端。本国の公演と同じものを持ってくるのではなく、日本の現実を取り込みながら作っていくので、事前の準備が大変です。

——そのようなドキュメンタリー演劇は、ドイツでは多いのでしょうか？

**ウルリケ** すでに完成された作品を同じ劇場空間で上演するのではなく、その場のリアルを引き込んで創造していく演劇が増えています。そこでは“役者”ではない人たちも参加者になったりします。面白いですよ。

**蓮池** 『F/T』では、ドイツのドキュメンタリー演劇をはじめ、日本と世界各国の、最先端のパフォーマンスを集めています。そうした世界の潮流をリアルに体感できるのは、フェスティバルという形でこそでしょう。

#### 身近な国際イベントを目指して

——多くの公演が集まり、演劇ファンには嬉しいですね。

**蓮池** 先鋭的な作品も多いので、個々の劇団をよく知らない人にも気軽に足を運んでいただけるよう、カフェやショップも併設した「F/Tステーション」を設けるなどの工夫もしています。

**ウルリケ** 春の第1回では、外国人のお客さんも大勢来てくれました。私もそうでしたが、外国に住んでいると、自分の国の作品が来るのはとても嬉しいんです。

——演劇を通して、日本とヨーロッパの違いを感じることはありますか？

**ウルリケ** 日本の演劇はよく観ますが、一番驚いたのは、歌舞伎や文楽など300年以上昔のものがそのまま演じられていること。ドイツでは現代の作品が多いので。これはすごいことです。一方、ヨーロッパでは気軽に行ける演劇フェスティバルがたくさんあり、誰もが日常的に、先端の舞台芸術を楽しんでいます。演劇は、現代の状況を考える格好の場として機能しているんです。今後は『F/T』が、そういう形で定着していけるよう、皆で頑張っていきたいですね。

『フェスティバル/トーキョー09秋』

10月23日(金)から12月21日(月)まで、東京芸術劇場をはじめとする東京・池袋エリアで開催。

はすいけ なおこ  
**蓮池 奈緒子**

『フェスティバル/トーキョー09秋』  
実行委員会事務局長



Ulrike Krauthaim  
**ウルリケ・クラウトハイム**  
『フェスティバル/トーキョー09秋』  
実行委員会制作スタッフ



東京の外国人が見る“東京文化”

## 文化について相互理解を深めることが大事

日本におけるイタリア文化の普及と、日伊文化交流を目的に70年近くの活動実績があるイタリア文化会館。館長のウンベルト・ドナーティさんに、文化発信という側面から見た東京の魅力を伺いました。

### 質の高い文化に触れることのできる東京

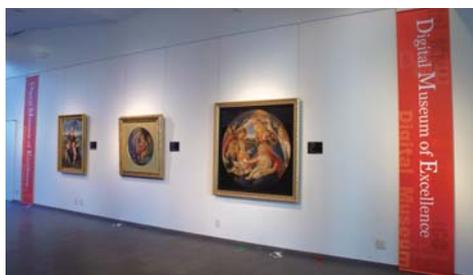
——現在はイタリア文化を日本に広めるためにご尽力されていますが、そんな中で感じられる東京の魅力とは？

東京は、世界の中でも生活の質が非常に高く、また、人々が文化に触れることのできる機会がとても多い都市ですね。日本の文化はもちろんのこと、海外の文化も享受できるのは大きな魅力です。美術展やイベント、コンサートなどの開催数も多いですし、その質も非常に高いと思います。

私も日本の伝統文化に興味があり、歌舞伎や狂言を観ることがあります。歌舞伎の公演では欧米人を見かけることが多く、その数は以前よりも増えてきているのではないかと感じています。英語のイヤホンガイドがあるのでストーリー展開やセリフが外国人でもわかりますし、そういった意味で、歌舞伎は西洋文化にも門戸を広げている。“歌舞伎ミュージカル”ではありませんが、積極的な西洋文化との融合を行おうとしていることは、とても興味深いですね。

また、日本での滞在が長くなると、このような伝統文化から、例えば、“宝塚歌劇”のような日本独自の文化にも興味を広がっていきます。そういう点で、外国人にとっても様々な文化を享受できるのが東京の魅力だと思います。

それから、私は東京の街を散策しながら、寺社仏閣や歴史のある彫像を見るのが好きです。地下鉄も便利ですが、徒歩や自転車で街を回るといろいろな発見があって面白いと思います。高層ビルがある街でも、すこし離れば昔ながらのお店がひしめきあっている通りがある。そんな多様性が東京の魅力でもあるので、それらを楽しむには自転車を活用してみるのも面白いと思います。



10月には同館において、フィレンツェ美術館所有の名画を高精細にデジタル化した絵画レプリカが展示されました。

### 文化を発信することで互いの理解が深まる

——同館では多様な

文化普及事業を積極的に行っているらしいですね。

私どもでは、母国の文化をシンポジウム、展覧会、映画上映会や演奏会などで紹介したり、図書館や語学コースを運営しています。この秋からは、シエナ外国人大学の協力のもと、新学習法「サジェストペディア<sup>※</sup>」を導入するなど、イタリア語の普及に努めています。

また、現在開催中の『日本におけるイタリア2009・秋』では約300のイベントを予定しています。この取り組みはイタリア文化の普及ですが、ひいては日本とイタリアの文化交流にもつながっていくと思います。1月から東京都庭園美術館で始まる『イタリアの印象派 マッキアイオーリ展』は、19世紀の芸術運動を紹介する特別展です。日本人にはまだ馴染みのないイタリアの側面をご紹介しますと思います。

——グローバル化が進む世界の中で、各国が個々の文化を発信する意義についてはどうお考えですか？

一言で言うと、“相互理解を深めていく”ということになると思います。異なる文化の国が互いを理解しないことは、争いの原因になります。それを避けるためにも相互理解というのは非常に重要ではないでしょうか。

イタリアで始まった「スローフード」も、その土地や国の食文化を大事にしていく運動です。日本にも素晴らしい食文化があり、私も日本でおいしい豆腐を見つけ、パスタのレシピを考えたほど(笑)。どの国も固有の文化を大事にしつつ、相手の理解にも努める。これこそがフラットになりつつある世界で文化発信する意義だと思います。

<sup>※</sup>「サジェストペディア」……音楽やゲームなどのアクティビティを併用しながら脳を活性化し、学習者の記憶力を高めながら語学修得を目指した外国語の学習法。

Umberto Donati

ウンベルト・ドナーティ

イタリア文化会館 館長、伊日財団事務局長。イタリアのレッジョ・エミリア生まれ。イタリア国内の様々な企業の代表取締役を経て、『日本におけるイタリア2001年』の事務局長を、さらに05年の愛知万博ではイタリア政府総代表を務める。06年にイタリア文化会館の館長に就任。



## 『東京大茶会 2009』参加者に聞く の だて “野点”を通して日本文化にふれました

東京文化発信プロジェクトの一環として開催された『東京大茶会2009』。会場には、東京に滞在している外国人の方も大勢訪れています。そのひとり、英国ご出身のスワン・クローガーさんは、昨年・今年と2度の参加。すっかりファンになったという茶会の感想を伺いました。



Xuan Kroeger  
**スワン・クローガー**

1981年フランス生まれ。8歳からはイングランドで育つ。マレーシア、インドネシア、タイなどを旅したのち、昨年9月から日本へ。英語学校講師として東京在住。相撲や武道のファンでもある。

### 来日してすぐに“野点”に参加

『東京大茶会』のことを知ったのは、昨年9月に来日してすぐのことです。子供の時からずっと、ヨーロッパとは全く違う暮らしを体験してみたいと思っていました。それで、アジアをあちこち旅したのち、英語講師として、経済的にも文化的にも豊かな日本で生活することを決めました。最初は言葉もまったくわからず、ホテルから外出するのも怖いほどでした。そこで出会った生徒さんに『東京大茶会』の開催を教えてもらったんです。

持っていたガイドブックに「茶」と「茶せん」は載っていたけれど、「茶会」がどんなものか、なんの知識もなかったのち、一緒に来日したボーイフレンドと一緒に、勉強のつもりで出かけてみました。“英語で野点”の席は満席で、日本人向けの野点に参加。外国人は私たちだけだったんですよ。ルールは知らないし、日本語もできないし。でも、会場の方が英語で説明してくれ、なんとか見よう見まねで飲んでみました。

茶会の雰囲気は印象的。皆が集中していて、しんと静かだ。特別な場だというのが伝わりました。女性たちのキモノ姿や、会場の生け花もシンプルでイングランドでみるアレンジとは全く違うけれど本当にきれいでした。

### この文化を英国でも伝えたい

不思議だったこともたくさんあります。お菓子は先に食べ終えろとか、お茶碗を回してから飲むとか、なぜなのかしら?と思います。それに、私が育ったイングランドもお茶の文化を大切にしていますが、あちらではゆっくりとりラックスするためのもの。日本の茶道は儀式風で哲学的。きっちりとした特別なルールがありますね。非常に興味深いところです。

私たちにとって、公園などでこうした公共のイベントが開かれるのはとてもうれしいこと。観光だけではわからない伝統文化に、気軽にふれることができます。今年の秋は両親が日本に遊びに来たので、『東京大茶会2009』にも、もちろん家族で参加。日本人に混ざり体験できたのが面白かったので、今年も野点へ。私がこの1年間で知った日本を見せることができました。

茶室でのお茶も経験したいし、キモノも着たいし、日本文化のフィーリングや知識をもっと身につけたいですね。来年には帰国の予定。茶会をはじめ、日本で学んだ文化を、ロンドンの皆に広められればと思っています。

## データで読み解く “東京文化”



—外国人旅行者編—

### 外国人旅行者が 最も満足した“東京の街”

1位 新宿	16.9%
2位 浅草	10.1%
3位 銀座	7.5%

### 外国人旅行者の “東京への訪問目的”

1位 買い物	40.2%
2位 散策	35.7%
3位 風景(夜景)	33.4%

東京都に年間訪れる外国人旅行者の数。昨年は約534万人と、過去最高を記録した。これは都の産業労働局観光部の調査結果によるもの。この増加には東京の魅力発信や観光資源の開発などにも一役買っていると考えられている。

「最も満足した“東京の街”」の4位以下の順は、4位「渋谷」、5位「お台場」、6位「上野」となっており、最新の流行を追う街から、伝統的な街まで、東京の多様な街の魅力が外国人旅行者に受けていると思われる。また訪問目的は、1位「買い物」、2位「散歩」、3位「風景(夜景)」の順。追って、4位「伝統文化/歴史的施設」、5位「飲食」、6位「美術館/博物館」となっており、東京の文化体験も健闘している。

出典：Tokyo Tourism Info ホームページ  
(東京の観光・行政情報 平成20年東京都観光客数等実態調査結果)  
<http://kanko.metro.tokyo.jp/>

# EVENT A La Carte

イベントアラカルト

東京文化発信プロジェクトの事業で、今後注目したいイベント、開催された公演のレポートなどを、本コーナーでご紹介いたします。

## 公演 レビュー

TOKYO MUSIC CIRCLE in 都庁前 都民広場 (9/27)、in 上野公園 (10/1)

## 開放的な空の下で堪能したクロスオーバーな音楽イベント

10月1日の「国際音楽の日」にちなみ、都内各所で開催された音楽や文化がクロスオーバーするイベント『TOKYO MUSIC CIRCLE』。その中から屋外で開かれた2公演を紹介いたします。

9月27日、東京都庁前の都民広場には、日野皓正さんがオーガナイズした学生バンド DJB plus+、柴田淳さん、人気ヒップホップトリオ「HOME MADE 家族」など気鋭のミュージシャンが集結。ジャンルの垣根を超えたライブが展開されました。広場で足を止め、演奏を楽しむ外国の方々の姿も。

そして10月1日には、上野公園でヘブナーアーティストを含むパフォーマーたちによる、街なか音楽が開催されました。ヘブナーアーティストとは、東京都が実施する審査会に合格したアーティストたち。正午のスタートから、公園の入口、噴水池前など5つの場所で、クラシック、ボサノバ、プラス演奏などさまざまな音楽が繰り広げられました。

“都民の日”ということもあり、動物園に来た親子連れも大勢。晴天の青空の下、緑の中で聴く音楽の心地良さに酔いしれたひと時でした。



in 都庁前 都民広場

左上/「通りすがりだけど、思わず立ち止まってしまったよ。楽しかった!」とアメリカから留学中の大学生グループ。  
左/「東京はNYなど他の大都市と比べ、グリーンでいいね」とスウェーデンから日本に物理学を学びに来たパールさん。



噴水池前に美声が響く。



in 上野公園

爆発力のある演奏。

## 注目の イベント

### 東京都現代美術館 井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト 「バガボンド」モチーフの 巨大作品が登場

「バガボンド」「スラムダンク」などの長編マンガで絶大な支持を得ている井上雄彦。東京都現代美術館のエントランスの一角に、パブリック展示として墨と筆で作品を描きおろすという壮大なプロジェクトが行われます。作品のモチーフは『週刊モーニング』で現在も連載中の「バガボンド」。2008年、上野の森美術館で開催され、今後も大阪や仙台への巡回を予定している「井上雄彦 最後のマンガ展」では、高さ3メートルを超える作品が展示されましたが、今回はそれを遙かにしのぐ大作となる予定。圧倒的な迫力が体感できそうです。

開催日

●2009年10月31日(土)～2010年3月28日(日)

東京都現代美術館 エントランス

10:00～18:00

※休館日:月曜

(11/23、1/11、3/22は開館・翌日休館)、12/28～1/1



## ミュージック&リズムス TOKYO KIDS

### 自然の中で、手作り音楽 ワークショップ!

## キッズ体験 レポート

楽器作り、合奏、演奏会と3段階の連続講座で、子供たちが音楽の生まれる現場を体験する『ミュージック&リズムス TOKYO KIDS』。10月12日に田園調布せせらぎ公園で行われた「自然に触れよう!楽器を作ろう!」に伺いました。

午前中は公園内の森を散策し、自然の中に生まれる音を体感。午後からは、竹製ドラム「スリットム」、拍子木の「竹べら」、ほら貝のような音の出る「竹ぼら」等、竹を素材にした楽器を子供たちが自作しました。ノコギリやヤスリを使い、夢中になって竹を加工する子供たち。講師のドラム奏者・根本久子さんは「皆、発想がとても豊か」と子供たちの好奇心に感嘆していました。この日の成果は、11月1日に東京都庁前 都民広場でのコンサートとして発表される予定です。



# 10~11月 主な事業スケジュール

東京ならではの芸術文化の創造・発信		芸術文化を通じた子供たちの育成	
10月	<p><b>フェスティバル/トーキョー 09 秋</b></p> <p><b>17日(日)~11月1日(日)</b> 「生きてるものはいないのか」「生きてるものか」2本同時上演 作・演出：前田司郎(五反田団) 東京芸術劇場小ホール1 ※F/T参加作品</p> <p><b>23日(金)~11月3日(火/祝)</b>「るじ式」 作・演出：松本雄吉(維新派) にしずがも創造舎</p>	<p><b>東京大茶会 2009</b></p> <p><b>10日(土)~11日(日)</b> 江戸東京たてもの園</p> <p><b>17日(土)~18日(日)</b> 浜離宮恩賜庭園</p>	<p><b>ミュージック&amp;リズム TOKYO KIDS</b></p> <p><b>11日(日)~24日(土)</b> ワークショップ 田園調布せせらぎ公園/高尾の森わくわくビレッジ</p> <p><b>25日(日)</b> ワークショップ/東京都庁前 都民広場</p> <p><b>31日(土)~11月1日(日)</b> リハーサル&amp;発表コンサート 東京都庁前 都民広場</p>
	<p><b>ラグジュアリー：ファッションの欲望 特別展示</b> <b>妹島和世による空間デザイン/コム・デ・ギャルソン</b></p> <p><b>31日(土)~2010年1月17日(日)</b> 東京都現代美術館</p>	<p><b>青少年のための舞台芸術体験プログラム</b></p> <p><b>23日(金)</b> 東京都交響楽団 「第686回定期演奏会」ゲネプロ公開/東京文化会館</p>	
	<p><b>井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト</b></p> <p><b>31日(土)~2010年3月28日(日)</b> 東京都現代美術館 エントランス</p>	<p><b>Meet the Kids「踊る!リズム・ワークショップ」</b></p> <p><b>31日(土)</b> 東京芸術劇場 アトリウム</p>	
11月	<p><b>フェスティバル/トーキョー 09 秋</b></p> <p><b>6日(金)~15日(日)</b> 「あの人の世界」 作・演出：松井周(サンプリ) 東京芸術劇場小ホール1</p> <p><b>7日(土)~11日(水)</b> 「H3」 演出・振付：ブルーノ・ベルトラオ(グルーポ・ヂ・ファア) 【ブラジル】 にしずがも創造舎</p> <p><b>15日(日)~20日(金)</b> 「花は流れて時は固まる」 構成・演出・振付：黒田育世(BATIK) にしずがも創造舎</p> <p><b>15日(日)~22日(日)</b> 「個室都市 東京」 構成・演出：高山明(Port B) 池袋西口公園 ※24時間オープン(予定)</p> <p><b>16日(月)~23日(月/祝)</b> 「4.48サイコシス」 作：サラ・ケイン 演出：鮎屋法水 あうるすぽっと</p> <p><b>13日(金)~12月20日(日)</b> 「F/Tステーション」/東京芸術劇場前 チケット、関連書籍やオリジナルグッズの販売。併設のカフェではイベントやライブを予定。</p>	<p><b>19日(木)~22日(日)</b> 「赤鬼」 作：野田秀樹 演出：ブラディット・ブラサートン【タイ】 東京芸術劇場小ホール2 ※F/T参加作品</p> <p><b>20日(金)~23日(月/祝)</b> 「農業少女」 作：野田秀樹 演出：ニコソ・セタン【タイ】 東京芸術劇場小ホール1 ※F/T参加作品</p> <p><b>23日(月/祝)~27日(金)</b> 「デッド・キャット・バウンス」 演出：クリス・コンデック【アメリカ/ドイツ】 にしずがも創造舎</p> <p><b>25日(水)~29日(日)</b> 「アジア舞台芸術祭2009東京」 東京芸術劇場中ホール、小ホール2 ほか ※F/T提携事業</p> <p><b>26日(木)~29日(日)</b> 「フォト・ロマンス」 構成・演出：ラビア・ムルエ、リナ・サーネー【レバノン】 東京芸術劇場小ホール1</p>	
	<p><b>東京発・伝統WA感動</b></p> <p><b>21日(土)</b> 民俗芸能「東京・江戸の賑わい」 国立劇場小劇場</p>		
			<p><b>青少年のための舞台芸術体験プログラム</b></p> <p><b>16日(水)</b> 東京都交響楽団 「第690回定期演奏会」ゲネプロ公開/東京文化会館</p>
12月	<p><b>フェスティバル/トーキョー 09 秋</b></p> <p><b>1日(火)~6日(日)</b> 「演劇/大学09秋」 東京芸術劇場小ホール1/シアターグリーン</p> <p><b>4日(金)~6日(日)</b> 「卵を立てることから一卵熟」 演出・振付・デザイン：天児牛大(山海塾) 東京芸術劇場中ホール</p> <p><b>5日(土)~13日(日)</b> 「太陽と下着の見える町」 作・演出：タニノクロウ(庭劇団ベニノ) にしずがも創造舎</p>	<p>「神曲一地獄篇/煉獄篇/天国篇」 3部作連続上演 演出：ロメオ・カステルッチ(ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ) 【イタリア】</p> <p><b>11日(金)~13日(日)</b> 『地獄篇』/東京芸術劇場中ホール</p> <p><b>19日(土)~21日(月)</b> 『煉獄篇』/世田谷パブリックシアター</p> <p><b>17日(木)~21日(月)</b> 『天国篇』/にしずがも創造舎</p>	
			<p><b>青少年のための舞台芸術体験プログラム</b></p> <p><b>16日(水)</b> 東京都交響楽団 「第690回定期演奏会」ゲネプロ公開/東京文化会館</p>

## 東京アートポイント計画

様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により内外へ発信することを目指す事業で、様々なアートプログラム、人材育成プログラムを展開しています。

8月23日(日)~2010年3月13日(土)  
レクチャー・シリーズ「Tokyo Art School」/ヒルサイドブラザ

10月17日(土) 「はじっこから東京を考える」  
坂口 恭平(建築探検家) × 萱野 稔人(津田塾大学准教授・哲学者)

11月22日(日) 「プロダクションという方法」  
浅井 隆(有限会社アップリンク社長・映画プロデューサー・webDICE編集長) × 藤城 里香(無人島プロダクション代表)

12月12日(土) 「特殊な東京」  
アンドリュウ・マーケル(フリーランス・ライター・編集者) × マーク・ダイサム(クライン ダイサム アーキテツツ(KDa)・建築家)

<http://www.bh-project.jp/artpoint>

9月1日(火)~12月9日(水) ※コア期間 11月21日(土)~12月6日(日)  
墨東まち見世2009 /主に曳舟・京島・東向島・八広・押上エリア

○岸井大輔「墨東まち見世ロビー」  
9月1日(火)~12月9日(水)

○展示

10月3日(土)~12月9日(水)  
ティトス・スプリー「小窓」

10月31日(土)~11月15日(日)  
バルコキノシタ個展「モンスター」

11月21日(土)~12月6日(日)  
KOSUGE1-16「Cycle Mountain」

11月21日(土)~12月6日(日)  
北川真好「amplitude 鳩の街/光」

○杉田このみ上映会

10月10日(土)「石に激がれホトトギス」  
11月21日(土)・12月5日(土)

「続・ふと木歩という名をおもう」

○公演

10月20日(火)・21日(水)  
劇団トリのマーク(仮称)演劇公演「島あつめ」

○イベント・ワークショップ

11月15日(日)~11月23日(月/祝)  
村山修二郎「京島路地園芸祭」

11月21日(土) 村山修二郎「鉢灯籠 in マンモス公園」

11月22日(日) 大巻伸嗣「Memorial Rebirth」

○墨東まち見世さんぽ

11月14日(土) 曳舟・東向島ツアー1/京島・八広ツアー1

11月22日(日) 京島・八広ツアー2

11月28日(土) 曳舟・東向島ツアー2/京島・八広ツアー3

12月5日(土) 京島・八広ツアー3/曳舟・東向島ツアー4

○トークイベント

11月23日(月/祝)  
「地域密着型アートプロジェクトの可能性  
—「墨東まち見世2009」の事例—」

○墨東まち見世2009・交流サロン

11月28日(土)「墨東まち見世サロンI」  
12月5日(土)「墨東まち見世サロンII」

## 東京文化発信プロジェクト 概要

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

アーティストと市民による創造的な活動とその成果の発信を通じて、東京が「文化芸術創造都市」であることを、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。

実施運営の統括は、財団法人東京都歴史文化財団の東京文化発信プロジェクト室が行っています。

東京文化発信プロジェクトは、東京都の「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年度策定)への実行プログラムとして改定された「『10年後の東京』への実行プログラム2009」(平成20年度12月策定)における、目標6「都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する」、施策32「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」の指定で、重点的に実施されています。

### 報道関係の方々へ

「東京文化発信プロジェクト広報事務局」を開設しました。  
さまざまな切り口のプレスニュースレターを毎月発行し、  
プロジェクトや各事業について情報提供をさせていただきます。  
お気軽にお問い合わせいただきたく、よろしくお願いいたします。

#### <報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原  
電話：03-3818-2465 FAX：03-5689-0455  
E-mail:tokyobunka@prinfo.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8-11F

※プレスニュースレターは、下記からダウンロードすることができます。  
<http://www.bh-project.jp/festival/jpn/pressnews/>

次号 (vol.4) の予告  
特集テーマ：「地域・コミュニティ」  
11月下旬発行予定の次号では、地域やコミュニティとの関わりを切り口に当プロジェクトを紹介します。